

「どんどん橋のできごと」と「授業プラン

(6月5日 第5校時 3年1組 上野)

◎ねらい よく考えて行動し、過ちは素直に認めようとする態度をやしなう。

展開の分節	教師の働きかけ	予想される児童の反応	留意点
<p>(導入) 本時の課題提示</p>	<p>みんなは、ふだん、何かするとき慎重に、よく考えてから行動するほうですか、それともあまり考えないでぱっとやってしまうことが多いですか ・よく考えずにやって、しまったと思ったことはありませんか。</p>	<p>・しんちようにする。 ・あまり考えないでぱっとやってしまう。 ・ある</p>	<p>本時考え合いたいことを最初にきちんと入れておきたい、という意図。 具体的な体験の話が出れば軽く聞く。あまり時間をかけずに次に進む。</p>
資料の読み	資料を読む(副読本)		
あらすじ取り	<p>主な叙述を書いたカードをはりながら手早く整理。</p>		<p>子どもたちと簡単な確認をしながら。</p>
初発の感想	<p>みんなは、このお話を読んで、どんなことを思った? ここで、こんなこと思った、というのを出してください。</p>	<p>・まこと君は悪い子だな ・正君は断つたのでえらい ・ぼくは、調子にのってしまったので悪い ・何でぼくが傘をいれたくなつたのか、わからん。 ・何で、泣いてやるのかわからん。</p>	<p>子どもたちがこの資料のどんなところに心を動かされているかを探る意図 また、感想を出し合う中で、次の「ぼく」の気持ちを探るきっかけを生み出したいという願い。</p>
資料の読み深め	<p>◎ぼくの気持ちの動きをくわしくみてみよう。 ・最初、「ぼく」は、傘を投げ込む気持ちにはあったの? ・そんなぼくが、「やってみようかな」という気になったのは?</p>	<p>ない。あまりない。 ・こわれたらいやだ。 ・流れていってしまったらいやだ。 ・二人ともだいじょうぶだった。 ・スリルがあつておもしろそうだ。 ・弱虫と言われたくない。 ・もつとよく考えればよかった。 ・正君のほうがほんとの勇気があつたんだな。</p>	<p>最初のころの気持ちを問うことで、「やめておこう」という側の気持ちを引き出す。 おもしろさにひかれて、という考えと、虚勢を張つたという考えに分けられるだろう 冷静になった段階で自分の行為を振り返っている「ぼく」の気持ちを考える。</p>
価値の主體的自覚	<p>「何だか夕ごはんがおいしく食べられなかった。」</p>	<p>・もし、みんなが、「ぼく」だったとしたら、あの場で、どうした、と思いますか。</p>	<p>それぞれの理由も聞く。</p>
	<p>・この学習を通して考えたことを感想に書く。</p>	<p>・「ぼく」と同じでやってしまっただろう。 ・ぜったいしない。</p>	